



と助る事<sup>ト</sup>前<sup>ノ</sup>の時<sup>ト</sup>も猶<sup>カ</sup>うらうら<sup>ニ</sup>然<sup>レ</sup>ども嚮<sup>キ</sup>うら領<sup>ノ</sup>主<sup>ノ</sup>より贈<sup>ル</sup>る<sup>事</sup>  
 禄<sup>ノ</sup>ありこゝろ<sup>ニ</sup>び<sup>ハ</sup>一個<sup>ノ</sup>の活<sup>キ</sup>業<sup>アリ</sup>の<sup>人</sup>人<sup>ノ</sup>よ施<sup>シ</sup>は<sup>レ</sup>て以<sup>テ</sup>常<sup>ト</sup>と爲<sup>ス</sup>る  
 ろ<sup>も</sup>竟<sup>ニ</sup>ふ<sup>レ</sup>我<sup>ノ</sup>家<sup>ノ</sup>貧<sup>ク</sup>ありて諸<sup>ノ</sup>死<sup>ノ</sup>ふ負<sup>ハ</sup>債<sup>ヲ</sup>ぞ多<sup>ク</sup>なり<sup>ク</sup>る<sup>事</sup>近  
 け<sup>テ</sup>わ<sup>ら</sup>う<sup>レ</sup>ふ奥<sup>ノ</sup>新<sup>ノ</sup>田<sup>ノ</sup>よりへる<sup>處</sup>あり爰<sup>ニ</sup>ふ六<sup>ノ</sup>右<sup>ノ</sup>衛<sup>ノ</sup>門<sup>ノ</sup>よりへる<sup>農</sup>夫  
 あり家<sup>ノ</sup>大<sup>ニ</sup>ふ言<sup>ハ</sup>つ<sup>テ</sup>一時<sup>ノ</sup>の六<sup>ノ</sup>あ<sup>リ</sup>ん<sup>大</sup>病<sup>ノ</sup>ふ犯<sup>ラ</sup>れ<sup>タ</sup>り<sup>タ</sup>り<sup>テ</sup>醫  
 療<sup>ヲ</sup>と<sup>シ</sup>て<sup>テ</sup>い<sup>ハ</sup>る<sup>も</sup>効<sup>アリ</sup>驗<sup>アリ</sup>かく四<sup>ノ</sup>五<sup>ノ</sup>輩<sup>ノ</sup>の<sup>名</sup>醫<sup>ヲ</sup>を<sup>断</sup>つ<sup>テ</sup>薬<sup>ヲ</sup>  
 ろ<sup>も</sup>人<sup>ノ</sup>び<sup>ヤ</sup>ぐ<sup>レ</sup>義<sup>ノ</sup>齊<sup>ガ</sup>方<sup>ヘ</sup>史<sup>ヲ</sup>來<sup>リ</sup>る<sup>も</sup>ふ<sup>も</sup>義<sup>ノ</sup>齊<sup>ノ</sup>神<sup>ノ</sup>速<sup>ノ</sup>ふ  
 往<sup>テ</sup>て是<sup>ヲ</sup>を<sup>窺</sup>ひ<sup>則</sup>ち<sup>謂</sup>て<sup>曰</sup>く<sup>這</sup>病<sup>美</sup>ふ<sup>む</sup>づ<sup>く</sup>四<sup>ノ</sup>五<sup>ノ</sup>輩<sup>ノ</sup>の<sup>名</sup>醫<sup>ヲ</sup>  
 こ<sup>の</sup>り<sup>り</sup>く<sup>も</sup>十<sup>ノ</sup>死<sup>極</sup>として<sup>一</sup>生<sup>あり</sup>然<sup>る</sup>も<sup>我</sup>若<sup>キ</sup>の<sup>病</sup>と  
 治<sup>ハ</sup>る<sup>も</sup>何<sup>レ</sup>も<sup>や</sup>六<sup>ノ</sup>あ<sup>リ</sup>ん<sup>苦</sup>と<sup>息</sup>の<sup>下</sup>より<sup>も</sup>備

本服ひる更けりか厚く大恩と報せんとはつらん義舟やがく  
兩腹の薬と與へて飲りぬ六五のん信薬を賤し多子臭氣を去  
るる一々を堪えり然も忍びて是と服しつるに次の日大  
いふ黒色の兩便下り立地ちりりちりりしく成ぬ然し後  
猶數十々の薬と用ひ廿日づりのく全快しつる六五のん  
只管懐ひ一日金一圓と下僕ふりせり謝しつて義舟の方  
へ此く言り義舟是と看て大いふ叱て曰く六五のんが一命圓  
金いりつる買つるや借も安き命あり然接のやと命あり我  
も多し買かひり疾飲りて這如く告りやて醜謝しつるの快  
小返しつる六五のん是と聞て大いふ困り是れりつるも理あり

奈何しとよめりおんと一向小南議しつるに詮方りつて六  
五のん自親ゆきて義舟小見えあつて小僕が命助りしつる  
ら金し先生の贈りのあり奈何しと此報いと致しつるや万  
望も是と教りつるも尊命ふあつてい奉上人と云り  
べ義舟曰くさしんが我家ふりつるも負債あり米家薬店  
等あり是等の負債とのうむ彼方より拂ふべしつる  
もろふが六五のん詮方あり米家薬店七八軒を廻り負債  
のうむに済しつる彼是五六千金あり六五のん再服義舟  
が家ふりつる斯と語りつれば義舟懐んで曰く你命助りつ  
るのうむあつて亦二十年餘り其壽をばしつる共謂りつる

余家薬店の負債を我數十家の貧乏にわたりて米薬の  
餘借あり有りは是と償ふ所の餘徳あるが身小報ゆを死  
ありと云々つふぞ此はゆいん是と聞て大い懼ひ飯ころり一日  
まゝ前の主君より士二人來と再般せ返させ給ふべきよし  
と演々といふ義弁是と憂度ふゆい使士と一室上待せぬ  
那里しもあゝ逃去り使士中暮まで待たせぬ飯  
らざりつゝ空く第舎へ飯ころり義弁が近隣のみり  
大い驚け這かゝと尋めたり漸く刀狩山村こゝへ入る處に或  
家ふかゝも居ると看著ゆゝゝ然ども再般岡の家ふ  
かへらば然を家財雜具あてゆゝ做んやと問を義弁あて

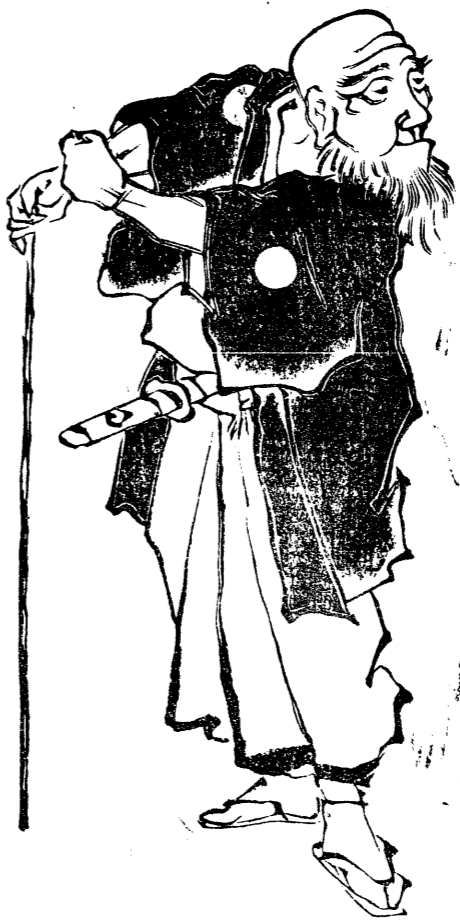
へ我家と棄て逃出とせぬ我家ふあゝ何れも做ら  
し詮方あゝて近隣より集りて屋敷に家財雜具等  
のりあゝ人ふ賣らるるがしき薬あてまらるるふや  
若干の黄金と得り近隣より黄金と持行て義弁ふ  
まへまらるるが我棄て家の金あんと我のあらんやと云て  
更に把て近隣の人たふ困は是れとて商議し同村り  
うち太貧に農夫ありて田地と賣んと為といへども買入  
あゝ難為ふゆゝ者あり然を這田地と買取べとてあ金の  
ゆく買請らるるが半作ゆけといふ極ゆく彼田地と人ふ作せ  
るる次の年秋豊作ゆけの半作の米金ふかへてはと刀

祢山の義禰がわたり持行するが義禰一向ふあんと受げ証を  
 あく持めくまきぬと商量し酒さうか多く買りしとた社  
 裡の老若男女をか打つひて酒との歌とらうひ三日たう  
 舞さうでてやりし金とつひ果しぬ次の年ちう半作  
 の金のありぬ村の人々はく打つひ商量して云や義禰の  
 冥ふ神の若き老人あり今這作徳の黄金さう一固の社を  
 立し義禰と神ふさうとて夫より番匠ふあつしと  
 村の一邊ふひとつれ小社を建立し義禰明神と祭さうり亦  
 はこの年の作徳さう義禰祭さうと云夏とさうあさう其  
 後絶はつりり斯う義禰の刀祢山ふも在びしと云ふ

あくはありにたり這義禰極老人さう其齡とらう人あれ  
 ば我朝ふ生らうと夕ふ歎し夕ふ歎て亦朝ふ生る那さうら  
 とらう齡とらうんやとらうり其容兒と見らう何と百歳ハ越  
 つらうと思らう程ありしと浪華中け島加新とらう老人の  
 物さうりあり固の義禰さうらうも述は項と絶てあり如  
 何あり者の死為さや義禰の社も壞てさう今も其跡も  
 ありとらう残さう事さうあり

○見返り醫者

天明のころ江戸横山町邊さうと本町あさう日本橋へん  
 ありとらう人の止りて看つる可笑き醫師ありし其さう



齡のやど六旬ぢりり法体よとて髭のびりり懐裡もかりど大  
 きくあ〜奇く曲る杖とつれ僕も列は唯一人病家と候  
 視みやありり人日毎かの邊を往來しりるか一丁かど歩行  
 てる杖とつき立両手と杖の頭よのせ後とまきつと見返り〜格と  
 ろ〜〜はと一丁かど行てる杖と路上よつと〜と両手と杖よ  
 のせ〜後と看かくりは〜とよ〜む亦一丁かど行て初の如  
 く身後と見え入り白眼くる何丁行ても斯のど〜寂き横  
 町あぢよ入て人の看ざる時と然あ〜とと思ふよ誰あ〜はとも  
 右の如くひとり見返り白眼つ行るる世人を見返り医者  
 と停号はゆりつとも医療と奴と得らうと或人云々り住處も

あつげ唯よく人の看し處ありと曲亭翁の書てゆゑに  
 俟爰ふあるに

○淹夢轉

南紀若山吹上あきさきとうやまをきか吹上のそととと云る處ふ天年山吹上寺といへる  
 禪寺あり宝曆明和のころ迄ちんざい這寺に夢助といへる老人あり  
 といへる武家より淹茂左衛門といへる人の弟同名茂助と云  
 一者あり中年よりちうねん當寺竜瑞和尚の弟子ふありとぐくもん學問は然  
 して無二の交まがとありふみ竟ふさうじう這寺ふ來りてざう住は生質女色を嫌ひ  
 といへおんがく仏學とあつむの外ちうとく他事ありおん老ふといへるまじさうじう這寺ふ在て  
 といへかた和尚ふといへる世の中あつと夢ゆめとさういへるむすけ夢助とあつといへるつひ常

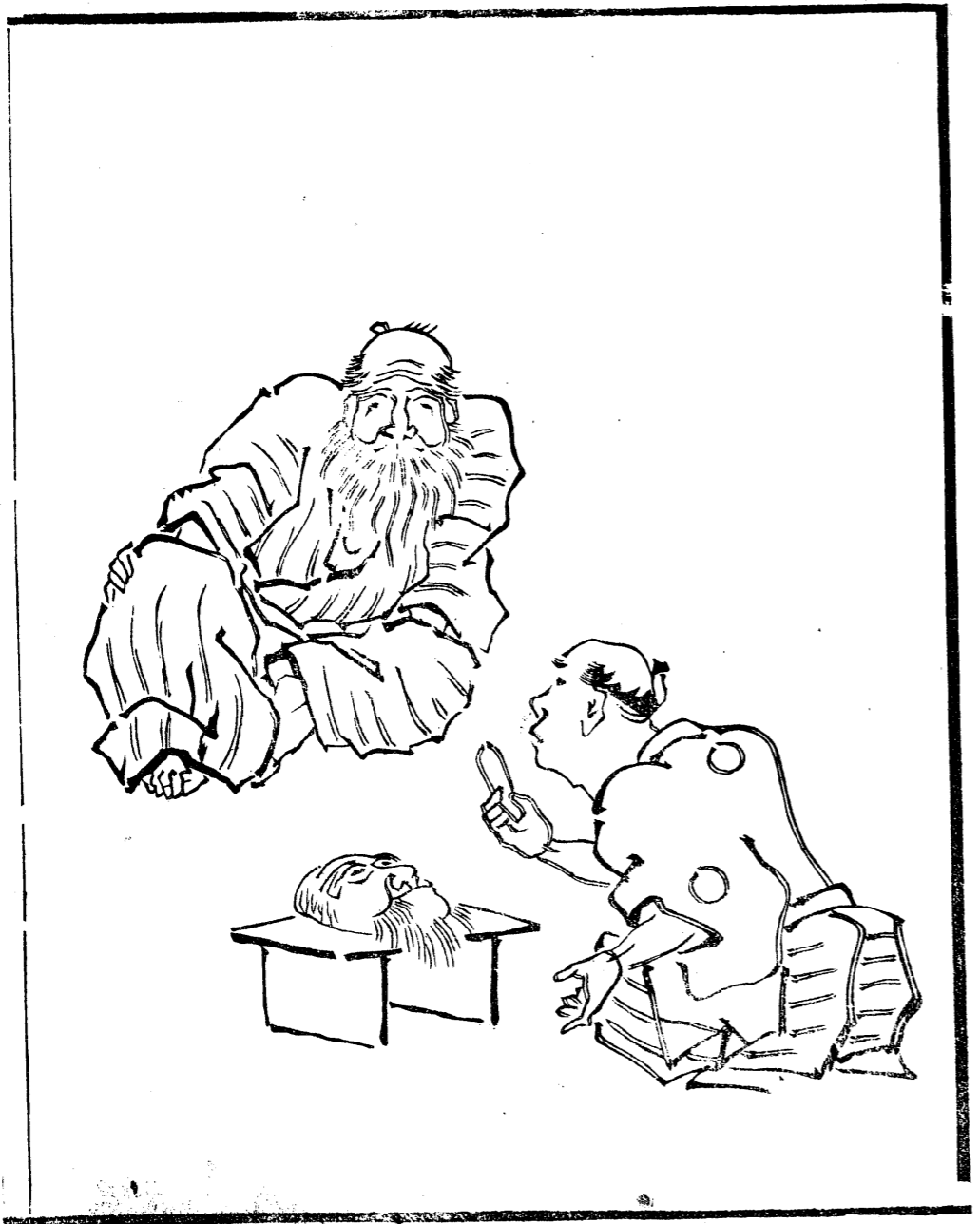


小市街とあり、夏冬とも片肌ぬれて手扇とあり、暗  
 雨ふかり、木屐とあり、顔のいろ、抹茶  
 のごとく、閻王の面ふ似、毛髪を雪の如く、銀洗植  
 くり、み等、初て路上ふあふ人、髪をかき、看ざる物あり、  
 天明元丑、十月十日、六十五歳、死に、則ち吹上寺、葬  
 一固の石碑あり、真性了空、禪定門とあり、は、同  
 境内、夢助が木像と彫、地藏堂の如く、安置、則ち  
 紅顔白髪、肩ぬれ、扇とあり、木屐、うれる姿、  
 生るが如く、い、り、あり、先年、吹上寺の老和尚、夢助傳、  
 ける漢文と、は、り、夫、の、猶、を、か、べ、予、が、聞、く、  
 百家三ノ九

麻僧のめづり、い、う、齧、詰、り、の、ぬ、べ、  
 ○髭の亦四郎

安永天明の、あり、江戸、青山、久保町、小髭の亦四郎と云、の、在、り  
 夫婦とも白髪、一対の雪の、か、ら、あり、別、て、亦四郎、猶、清、く  
 白糸、の、頭、を、編、み、髪、の、長、一、尺、二、寸、あり、妻、ふ、の、  
 黒毛、も、ゆ、り、亦四郎、鬚、髭、も、黒、毛、と、  
 一、根、も、有、夏、か、蜀、の、雲、長、再、來、と、髭、と、く、べ、ん、と、い、ふ、も、  
 一、の、雲、塵、も、く、と、衆、人、を、か、り、賞、り、り、元、來、達、者、老、翁  
 生涯、病、と、い、ふ、夏、と、あ、り、家、を、塩、味、噌、薪、の、木、屐、草  
 履、紙、筆、ら、り、其、外、何、も、高、い

けり然む家号と萬屋と云々色々も誰か夫とよぶりのあく唯  
 鬚亦とのみ呼あ〜たる一時四十餘りの士下隸二人ひきりて入  
 来と亦四郎と對面〜そわ〜と市谷邊何ぞ候藩中の  
 者あるが不計貴老の鬚のうら〜き事とつ〜聞我君よま  
 と買のゆ〜度〜と曰ふ這故よ〜〜来〜此支と談す  
 あり尙甚〜か〜びら其鬚と賣られよ價々望上〜す〜とい  
 亦四郎聞て賤老數年大事ふうけ〜延〜候ふ鬚あれば一向に賣  
 支と好びさりあ〜止事あき御方の御要に用ひら〜ん支  
 眞加の程もり〜〜か〜候ふ若這鬚とや〜せあが如何なる  
 とは醜謝と〜ぬ〜んやと問々〜彼〜い曰く三十金と





贈るべしといふ亦四郎はほむ無欲の者ありしに當下ついで  
此のひらん彼三十金あり鬘を賣らむらんと言ふるも侍  
ら喜びてさうば四五日と経て鬘請取ふ来るべし且證首上牛金  
とさうば四五日と経て十五兩とせぬかへりたりと斯て四五日を  
過しころ處ふかの侍も二三人を倡引来り亦四郎は禱の日乃  
残り十五金と與へらば亦四郎は後あびて是を請とせぬ然  
む鬘とさうば上べしやて剃刀ととり出し剃落さんとせぬと  
かの侍大いふゆゑ後き急ふゆゑ止り剃ゆとせぬ鬘何ゆ  
せん是ら一筋づ抜たるありといひて被列来り人々包祇の  
裡よりひとり一の翁の彫面ととりしに銀もて亦四郎が鬘と一

とち抜てふかの木面より亦一振ぬれてみん小植るふぞ有る  
亦四郎疼堪がと流し汁を流し牛の毛の刺落して進むるふと  
とろろえ御誓住とついで侍へども斯様のあんま候は御  
免しめらるべし價金とのあらは返し進ばると云ふも  
彼さうばひ大いふ幣を刺する鬘を死毛あり誰う一圓金も買  
ひのゆゑんや武士ふ両言あり今ふありて断言を兼引んや  
你と我との奈何もあは我主君へ辨解あり今も你何と  
いふも弟お是とぬきとるべしと叱るも亦四郎は  
いりあつて詮方ありたも右も做る人として居りたる彼  
ひとり再般鐵ととりあげ亦四郎が面上ふむい鬘一振と

ぬきくりてハ彼面上に植せし後てらるゑたる事上首の如く  
 亦四郎兩眼より泪と流し一境居る當日一日うら植う終るるまで  
 次の日も亦来りて斯のどく做三日うて漸々植をつらう  
 亦四郎是より後心ぬけして訖子のこくあり鬱々として暮  
 しつらが五六十日過て二三日病て死去に寛政六寅年七十九  
 歳あり

○郷谷老夫婦

備中の國加陽郡木谷村といへる處より行事より三四丁ふ  
 して舞谷といへる所ふつら峰々たる高峯の挾間う  
 其う二三四丁或ハ一丁亦々半丁程のともらりありて廣校

さしに定らば左右あつて二十丈あまりの巖壁累々と  
 して岨立はゆるゆる不雙の鐵石城あり嶺上より眞鍮の橋  
 あどいへる處あり中ふも天柱嶽といへる高き事三十五丈嶺頭  
 ふ天柱の二字を彫著し岡山の書家竹本登る菴丈化の十七八丈と下  
 より看ふ文字あがやうふ見わたり文字大い計が  
 樹木森々として日光の影をうむ頗る幽拙に閑溪  
 ありてりし山を水流をいぞ大いある石を轉に這り  
 此石悉く詩哥と題し多々四方の雅客のよごあべり這  
 澗中ふうへ入るれは且空炮を二三挺打し其後進へ入夏  
 あり然せざる時と病を受ると云つて入るり天明年中這